

箱根火山の活動を伝える ～箱根ジオミュージアムの取り組み～

山口珠美
(箱根ジオミュージアム)



箱根ジオミュージアムが開館してから 1 年ほど経過した 2015（平成 27）年 5 月、火山活動の活発化に伴い大涌谷周辺への立ち入りが規制され、大涌谷にある箱根ジオミュージアムは突如臨時休館せざるを得ない事態に追い込まれました。2016（平成 28）年 2 月現在も施設に立ち入ることはできず展示見学は休止していますが、この間にもミュージアムとして果たすべき役割を検討し続け、町内外でさまざまな取り組みを行ってきています。本稿では、開館以来ミュージアムとして担ってきた役割を振り返るとともに、臨時休館中に取り組んできたことについて報告します。

■開館から臨時休館まで

箱根ジオミュージアムは、箱根町大涌谷に 2014（平成 26）年 4 月 17 日に開館した箱根町観光課が運営する施設です。当ミュージアムは、2003（平成 15）年に閉館した箱根町立大涌谷自然科学館の後継施設であるとともに、箱根ジオパークの拠点施設としての役割も担っています。館内には、箱根の自然、温泉、歴史についての展示、溶岩等の実物展示、地形模型等があり、さらに箱根の火山形成史や地すべり対策等について大型のスクリーン映像で紹介していました。ミュージアムとしての規模は小さいものの、地域住民や観光客が箱根の自然について学ぶことができる展示施設を町として整備したのです。また展示だけでなく、専門員 1 名をおき、箱根の自然について理解を深めていただく体験活動が大切であると考え、館内では身近な材料を利用した火山実験や工作、野外では大涌谷を散策しながら地形や植物を観察する見学会も実施してきました。

2015（平成 27）年 4 月下旬、開館してから約 1 年が経過した頃に、箱根では火山性地震が頻発するよう



写真 1 箱根ビジターセンターでの展示の様子。

になりました。また 5 月のはじめには、大涌谷の温泉供給施設の一部から蒸気の勢いが増す様子が確認されました。さらに山体の膨張や傾斜の変化を示す観測データもとらえられていました。このような火山活動の活発化を受けて、5 月 6 日午前 6 時に、気象庁は大涌谷周辺（箱根山）の噴火警戒レベルを 1 から 2 へと引き上げました。その後すぐに大涌谷周辺地域への立ち入りが制限され、立ち入り規制エリア内にある箱根ジオミュージアムは臨時休館せざるを得ない事態になりました。

■臨時休館中の取り組み

箱根ジオミュージアムでは 2014（平成 26）年の開館以来、箱根の素晴らしい景色、箱根が活火山であること、大涌谷で火山ガス濃度が上昇した時に安全対策を取っていること等についてミュージアムを訪れる方々に伝えてきました。しかしながら、これまで実際に噴火をした記録は歴史時代にはなく、火山活動が活発化する以前には、箱根が活火山であるということをまず知ってもらうということが第一で、安全対策につ

いては将来あり得ることとして注意を促すということに留まっていました。ところが2015（平成27）年には火山活動が活発化し噴火警戒レベルが引き上げられ、噴火する可能性もあるという状況になりました。このような状況下だからこそ、これまで取り組んできた箱根火山について伝える活動がますます必要であり、さらに自然現象やその観測方法についてもより深く理解を深めてもらうことが大切であると考えました。そのため臨時休館であっても、火山活動の状況を伝えていく様々な方法を試みることにしました。取り組みとして次のことを行いました。



写真2 森のふれあい館での展示の様子。



図1 「知っておきたい火山の話 大涌谷のいま」リーフレット。

1. 火山解説パネルの制作と展示

神奈川県温泉地学研究所等が発表する箱根の火山情報について紹介するパネルを制作し、箱根ジオパークの拠点施設を中心とした施設で展示を行いました（計7施設）（写真1、2）。2015（平成27）年8月に実施したアンケート結果では、「火山活動が活発化している時期にこのようなパネル展示が必要であるか」との質問に対して、ほとんどの方が「必要である」と回答しました。2016（平成28）年2月現在、展示は環境省箱根ビジターセンターと箱根町立森のふれあい館にて継続しています。

2. 「知っておきたい火山の話 大涌谷のいま」リーフレットと映像の制作

大涌谷の火山・地震情報について、グラフや図などを用いてA4サイズの説明リーフレットを不定期に作成し、箱根ジオパークのウェブサイトで公開しました（計7回発行）（図1）。さらに、伊豆半島ジオパークの専門員に協力いただき、6

月末に発生した小規模噴火後の大涌谷の様子を捉えた映像を、マスコットキャラクター「はこジ郎」の解説をつけて親しみやすく紹介する映像を制作しました。この映像は箱根ジオパーク、および伊豆半島ジオパークのウェブページで公開するとともに、環境省箱根ビジターセンターでの火山解説などで活用しました（図2、写真3）。映像を見ていただいた方にアンケート調査を実施した結果、このような映像を「公開すべき」という意見が多くありました。アンケート結果の詳細については2016（平成28）年5月に開催される地球惑星科学連合大会の中で、伊豆半島ジオパークとの連名で発表する予定です。

3. 火山現象を理解してもらうための実験・実演やレクチャー

夏休み期間や土日祝日を中心に、簡単な実験を交えながら、火山現象について理解を深める体験型のイベントを実施しました。参加した子どもたちからは「実験が楽しかった」との感想が多く、関心を高めることができた実感しました。

図2 箱根ビジターセンターでの火山解説のチラシ。

写真3 箱根ビジターセンターでの火山解説の様子。



4. ジオツアーの開催

数十万年に及ぶ火山活動によって作り出されてきた箱根の地形や地質の見学に加え、今だからこそ見ることができる、現在の噴気活動を見学するバスツアーを開催しました（一般社団法人日本地質学会主催の大人向け、箱根ジオパーク主催の親子向けの2回実施）（写真4）。親子向けツアーでは、午前中に温泉地学研究所の方にレクチャーをしていただいた後ジオツアーへ出発し、見どころを巡りました。

■今度の取り組み

これら一連の取り組みについて、訪れた観光客からは「必要である」、「よく分かった」との感想を多くいただきました。こうした声を大切に、より充実した内容としていくため、温泉地学研究所と今後も連携を図っていきたいと考えています。箱根ジオミュージアムは町立のミュージアムという立場で、地域住民や観光客に対して、火山について伝え、さらに自然現象についてより深く理解していただけるような取り組みを今後も展開していきます。



写真 4 ジオツアーの様子。